



# IPCC 第6次評価報告書

---

現在各国が表明している2030年の削減目標では、平均気温の上昇は、**気候変動による深刻な影響が広がるとされる「1.5度」を超える可能性が高い。**

**「1.5度」に抑えるには、世界全体の温室効果ガスの排出量を遅くとも2025年までに減少に転じたうえで、2030年に2019年と比べて43%程度、2050年に84%程度まで大幅に削減する必要がある。**

気候変動対策の黄色信号



持続可能性が失われようとしている？

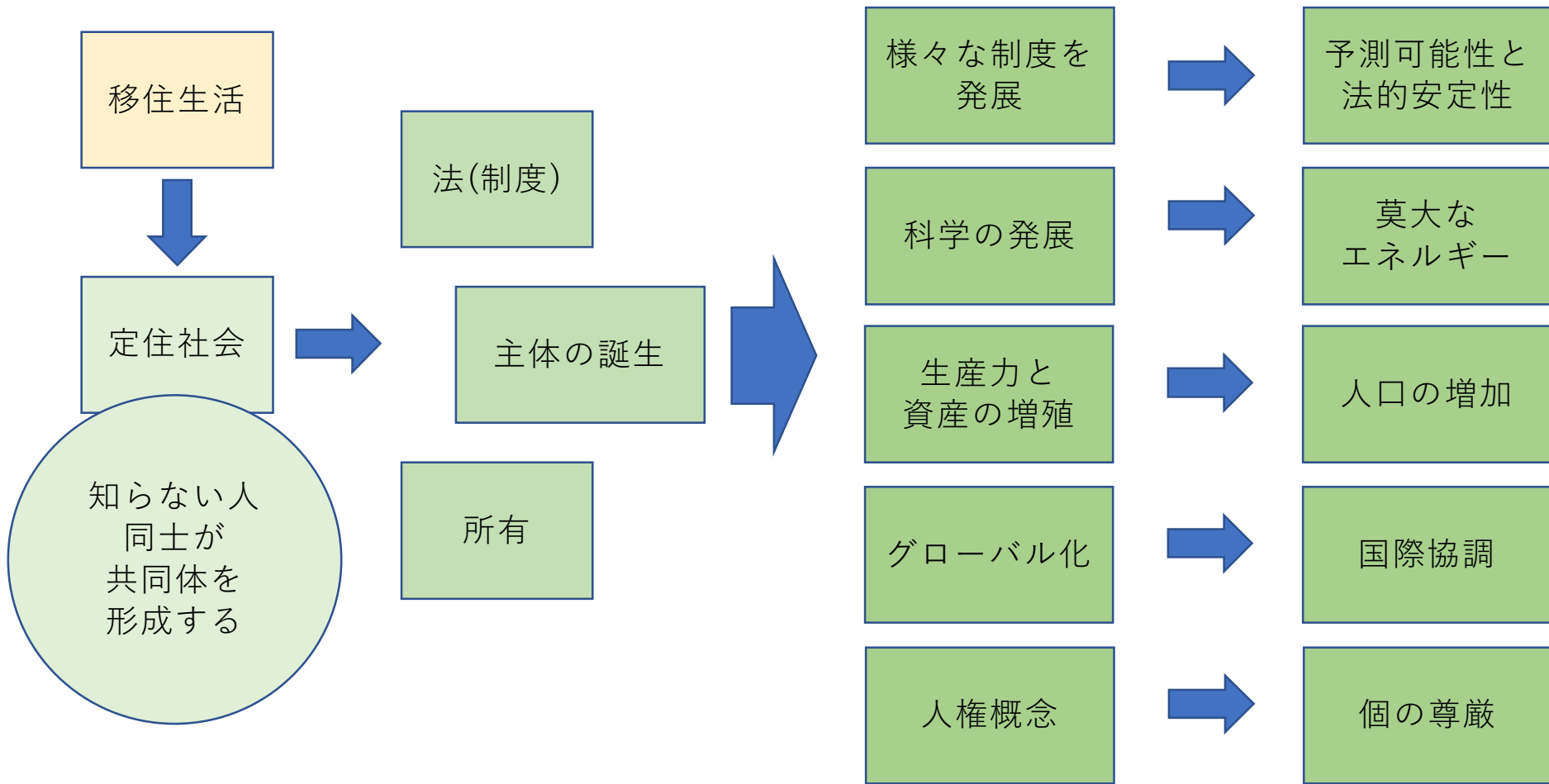


文明の崩壊？

考えすぎでしょうか??



# 文明の発展





# 制度の行く末

人を頼らないと生きられない世界



人を頼らなくて済む世界



安心安全便利快適を  
実現する制度



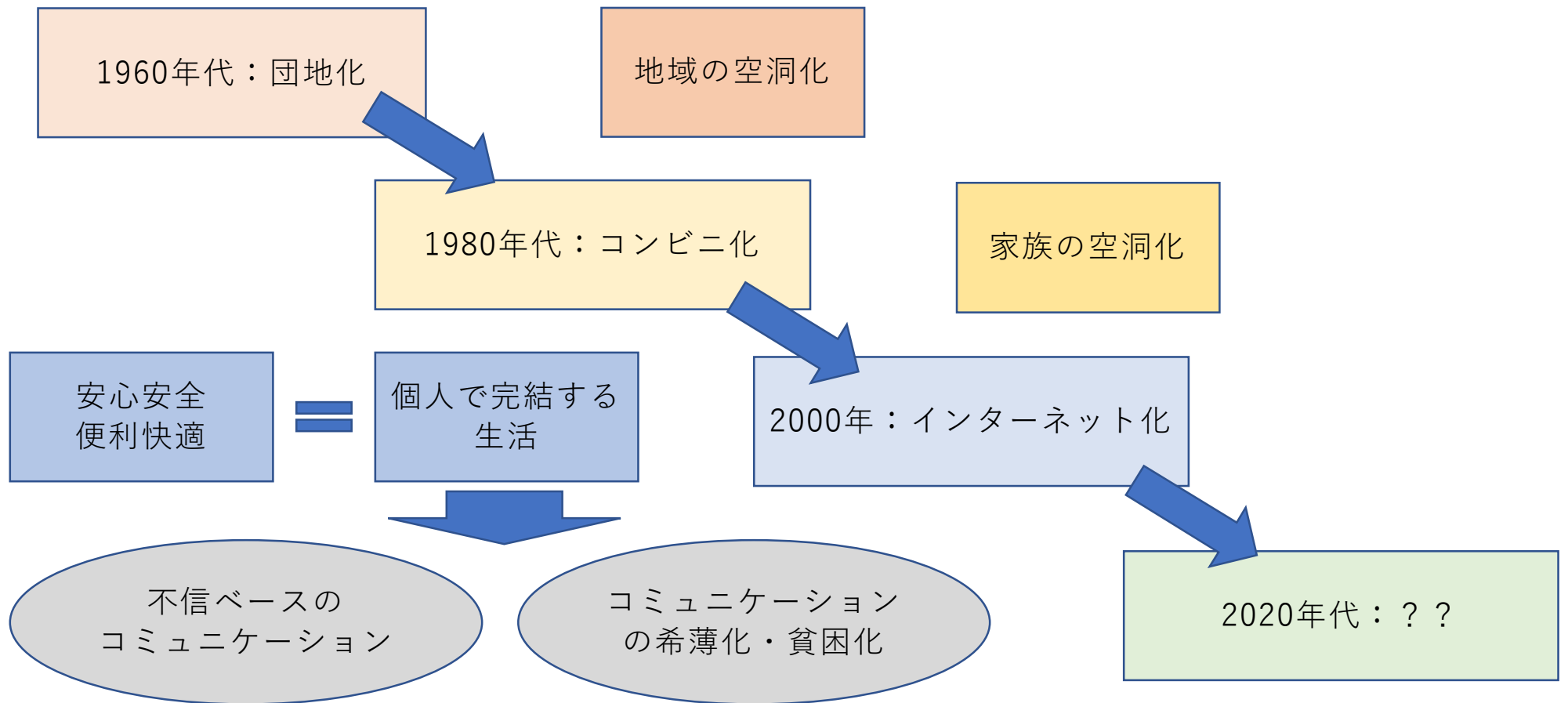
制度(金銭)を介さないでは  
人を頼れない世界



制度への過剰な依存



# コミュニケーションの変化





# 弁護士として感じる変化

---

契約書なき合意が困難

正しいこと、事実の認知が困難

正/邪の枠組みから逃れられない



コミュニケーションにより  
問題を解決する力が  
奪われている

# 俗世で生きる「六道の認識」

## ■地獄 怒りで自分が見えない状態

- 「出来事の違い」や「問題・欠落・苦しみ」を見に行く
- 物事を防衛的・ネガティブに解釈する
- 自分を責め続ける

## ■餓鬼

- 常に「欠乏感や焦燥」を抱く
- 「結果や物欲」に執着する
- 行動する
- 回される

## ■畜生

- ルールや常識に逃げる
- 「挑戦のない毎日」に満足する
- オールウインでは生きられない
- 生息する
- 「定住する」に定住する
- 「弱肉強食」の世界に生きる

## ■修羅

- 「主張・批判・恫喝」で生きようとする
- 意のままにならぬ
- 「他責」を基準にする
- 仕掛け続ける

## ■人間

- 「他者評価」に左右される
- 人間関係で悩む
- 「老や病」を苦しめる
- 「死や喪失」への恐れ
- 「のために生きる」のために生きる
- 行動する
- として生きる
- 行動する

## ■天道 有頂天で自分が見えない状態

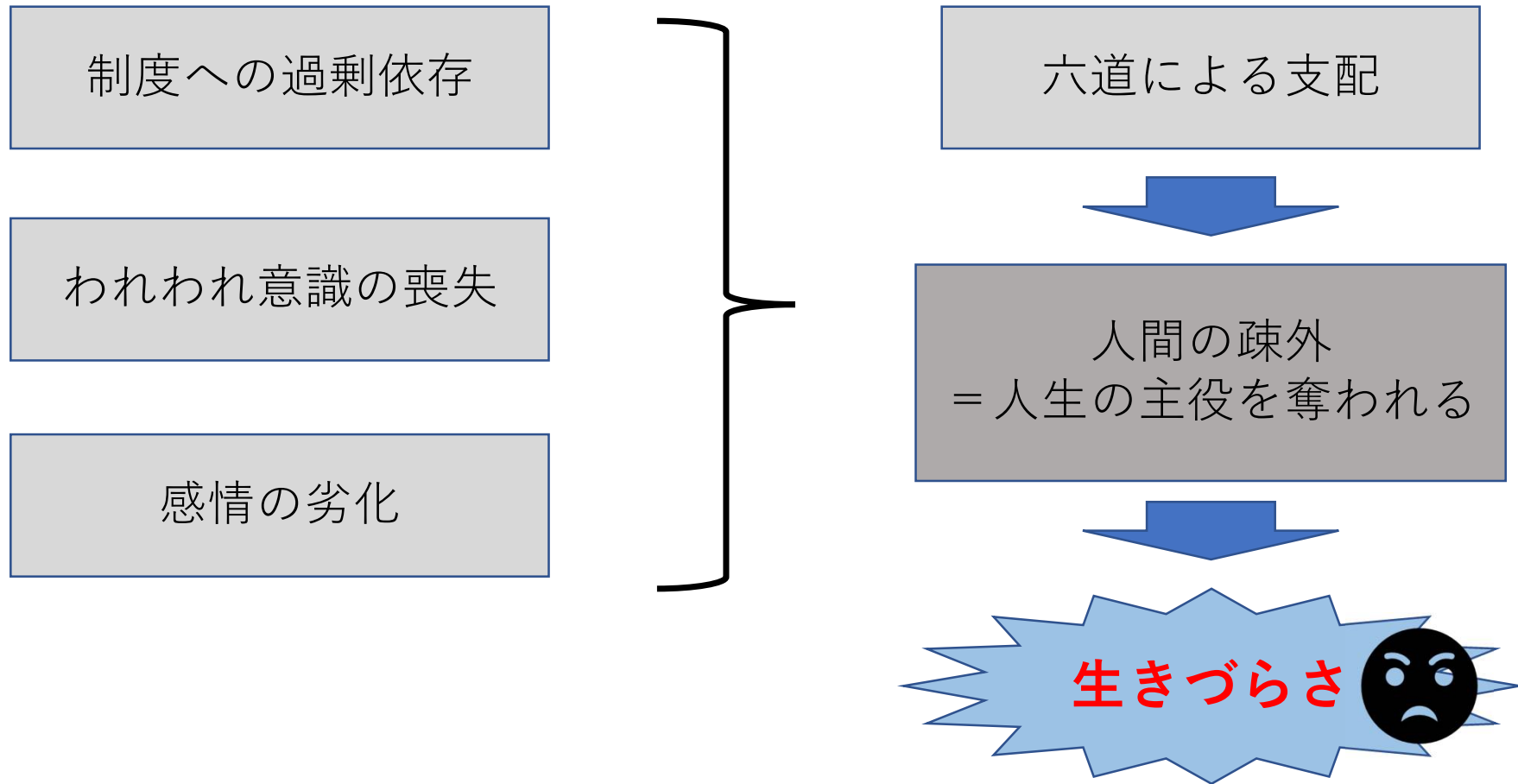
- 分かったつもりになる
- これでもいいやと慢心する
- 「地位や名誉といった世間評価」や「自分本位の解釈」を指針にする

## 感情の劣化

\*六道を認識し自分を俯瞰し自覚することで人生を掌握できる



# 文明の発展が生きづらさを生む





# 「菩薩」 怒り・落ち込み・慢心の無い世界

- ・ マイナスや批判の声から学ぶことができる状態
- ・ あらゆる人にプラスになる働きかけができる
- ・ 想定外に期待し想定外を歓迎できる
- ・ 自分の幸せと他者の幸せを重ねて行動ができる人



南無

お釈迦さまを信じ

社会の中で  
実践して生きる

経

妙法

降りてくるご縁に  
想いを馳せ

ご縁を活かして  
汚れの無い華を咲かせ

蓮華



## 大前提

お釈迦さまは  
私達が幸せにイキイキと生きるために  
智慧と慈悲の光で見守っていらっしゃる

菩薩の修行を重ね  
社会で実践することで  
「成仏」できる



# 生きづらさからの脱却

---

生きづらさは、文明の発展の結果である

**闘うべきは、憎い相手ではなく、  
「生きづらさ」を生む制度への過剰依存である**

幸福感が労働生産性を向上させる



# 今私たちがやるべきこと

---

制度への過剰な依存を排して



ネットワーク

共同体の再生を図るために



共同体自治

われわれ意識を取り戻し



コモンセンス

知恵を持ち寄る



ダイアログ



# なぜ共同体自治か

---

国連を動かすことはできなくても

**その積み重ねが  
世界平和を実現し、気候変動を解決する**

地域・会社・家庭・学校の平和は実現できる



# 山梨の可能性

## 人的資源

地域のために活動している人がまだいる！



**山梨にはまだ可能性がある**

人と人とのつながりがまだある！

## 地域資源

身近な自然がまだある！

## 天然資源

# 郷育<sup>きょういく</sup>2019 フォーラム

## 大綱

郷育フォーラムは、私たちの住む地域社会に「教育環境都市の創造」を提唱し、

「思いやりあふれる環境創造都市」を目指します。

この山の都を「教育環境都市」へ進化させていくためには、  
まずはここに住む大人の意識が変わらなければなりません。

「教育環境都市の創造」へ向けた市民意識のベースとなる  
「教育のこころ」=「大人が子どもを思いやるこころ」を  
郷育フォーラムを通じて直接大人の「こころ」へ訴え、  
浸透をはかることにより、山の都に住む大人が、  
山の都で育っていく子どもの未来を真剣に考えて  
行動していくことのできる理想社会の実現につなげます。



## 郷育フォーラムのあゆみ

2019年の開催で13回目を迎える郷育フォーラム。  
この郷育フォーラムがどのように生まれ、  
成長してきたのかをみなさんと一緒に振り返ってみたいと思います。

### 郷育フォーラムの誕生

大人が変わる  
子供が変わる  
人々が変わる  
地球(まち)が変わる  
日本が変わる  
世界が変わる  
百年先が変わる  
教育で変わる

左の言葉は(社)甲府青年会議所2007年理事長塩澤清司の理事長所信の中にある言葉です。  
予想しえなかったような事件・事故がニュースとして取り上げられることが多くなった現代社会。  
これは経済的にも、物質的にも豊かになった反面、かぎっ子、核家族化、人間関係の希薄化による「心の貧しさ」に起因して起こっているのではないかと考えました。この状況を打破するために「教育」の立て直しこそ急務であると考え、教育の整備、将来を見据えた教育を行っていくことが大切であるとし、甲府青年会議所は、2007年を「教育環境都市の創造」元年ととらえ、『きょういくのこころ育成』を全体事業として活動を行いました。さらに、家庭教育、学校教育、地域教育のソフト

面と教育環境というハード面の両面に対し、市民、行政、企業、各種団体に働きかけを行うための具体化した事業として「郷育フォーラム」を企画。1回目の郷育フォーラム2007開催当日には甲府青年会議所の活動地域である甲府市、甲斐市、中央市、昭和町の各議会に対し、『郷育(きょういく)の日』の制定に向けた請願書を提出。甲府青年会議所の提言に対し、各市町の議員を中心に多くの賛同を頂き、甲府市ではすべての市民が「教える、共に育ち、郷土を育む」ため、そして、思い遣る心と生きる力をもった人となるため、10月17日を「甲府きょういくの日(教育・共育・郷育)」と制定。中央市では市が誕生した2月20日を「中央市教育の日(通称「まごころの日」)」と制定、甲斐市では市民が多く集う「甲斐市わくわくフェスタ」開催日を「郷育の日」と位置付け、メインテーマを掲げたイベントを行うようになりました。



甲府市との共同記者会見

### 甲府青年会議所 初の快挙!!

このような甲府青年会議所の地域を巻き込んで取り組んだ2007年の「きょういくのこころ創造事業」は、地域住民と行政に対して広く浸透した事業という点で高い評価を得て、日本青年会議所にノミネートされた274事業のうち、最優秀事業賞を受賞することとなりました。2019年には設立68年になる甲府青年会議所の歴史の中でも、日本青年会議所の最優秀事業賞を獲得したのはこの「きょういくのこころ創造事業」が初めてのことでした。



甲府青年会議所が特集された  
日本青年会議所発行誌「We Believe」

### これからの郷育フォーラム

甲府青年会議所の事業の1つとして始まったこの郷育フォーラム。現在では地域団体有志による自主運営組織「郷育フォーラム実行委員会」による運営にシフトしつつあります。この郷育フォーラムは郷土を担う子どもたち、そして子どもを育てる大人たちにとって学びの機会になるように取り組んで参ります。今後とも郷土を育む我々の活動にご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



▽「中央市教育の日」に制定した市制施行記念日の二十日、市内の小中学校で、地元食料品を使った「まごころ」給食が振る舞われた。  
▽豊富小では、田舎地区のトマト、玉葱地区で生産された卵を使った卵焼き、豊橋地区で育ったシサクラボークのハンバーグが登場。児童は地産地消のメニューをおいしく召喚張った。写真：「一年生・節油・調理に携わった人のおかげで、給食を食べられることを実感して」と同校の栄養士、五井の米山隆平君。「ほ、ありがどうの気持ちです。」と、真心込めて「いただきます」。

年度	テーマ	実現目標	キーワード
2022年	繋がる	県内団体個人の連携	ネットワーク
2023年	感じる	対話文化の浸透	ダイアログと ファシリテーション
2024年	動く	地域の共同体自治	コモンセンス われわれ意識





# 2022年度やりたいこと

---

「きょういく」 = 地域の未来をテーマに  
様々な人々が集い、知恵を出し合う場

5月



8月

郷育フォーラム

10月23日

対話会を通じた県内のネットワークづくり



誰もが「私」の人生の主役のはずだから